



今、注目の「本当にすごいエコ住宅」！ これからの住まいのカタチをぜひ、ご自身で体感しに来てください！！

今回の
見どころ1

ZEHより
(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)

**もうワンランク上の
『パッシブ住宅』を
一度体験してみませんか？**

パッシブデザイン住宅

一般住宅／2013年改正省エネ基準レベル



F床面積 65.41㎡
F床面積 50.92㎡
延床面積 116.33㎡
(35.19坪)



「デザイン/料の要らない建築設計事務所」
株式会社 デザイナーズハウス 木屋
 一級建築士事務所
 建築業許可/岡山県知事(般-25) 第21407号
 宅建業免許/岡山県知事(3) 第4784号
 岡山市北区下中野701-108 info@house-kiya.co.jp
 tel.086-805-8648 fax.086-805-8658

お問い合わせ  **0120-85-8648**
フリーダイヤル

 ビジターズサイト <http://www.house-kiya.jp/>
 サポートサイト <http://www.house-kiya.co.jp/>

デザイナーズハウス木屋 検索

スマホは
コチラ



「パッシブデザインハウス」
 についての詳細は裏面で！
 ぜひチェックしてください。

※使用しているイメージ写真は今回
 見学会会場ではありませんが、当社の
 施工事例です。

「洗練された空間を楽しむパッシブデザインの家」をテーマにした、Kiya Styleの家づくり。
デザインだけでなく、強さと省エネ（パッシブデザイン）にこだわった家づくりが特徴です。

パッシブデザインとは

エコ住宅を実現するためのベースとなる手法。太陽や風の力を最大限に利用し、暮らしに必要な「明るさ」「暖かさ」「涼しさ」「新鮮な空気」を獲得する設計のことです。また太陽の熱や光を利用した設備や高い効率の設備を導入することで、消費エネルギーを大幅に削減することができます。

①日射遮へい

夏に家の中が暑くなる原因は、日射が室内に入ってくるからです。これを何とかしないとエアコン代もかさんでしまいます。放っておけばとてもたくさん日射が入ってくる窓ガラスを中心に、日射をささげる工夫を考えます。

②日射熱利用（パッシブソーラー）

冬に晴れている日が多い地域でたくさんの日射を室内に入れることができるなら、その熱を暖房として有効に使えます。ここでのポイントは断熱と蓄熱。これらをうまく高めることができれば、本当に気持ちよくて暖房費が少なくて済む家になります。

③自然風利用

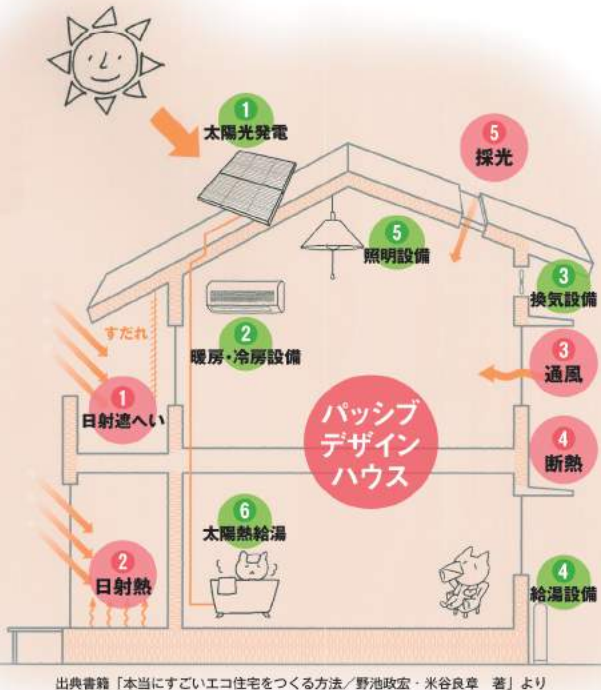
風通しのいい家は誰もが望むものでしょう。でも「本当に風が通る家」にしようとするなら、卓越風向、ウィンドキャッチャー、立体通風、高窓といったキーワードと、実際の設備テクニックを知っておく必要があります。

④断熱・気密

冬を暖かく過ごしたいと思ったら、とにかくまずは断熱性と気密性を一定のレベルまで上げることです。「断熱性や気密性は低いけど暖かくて気持ちいい」という家はありえませんから。もちろんそのレベルは地域や希望する暖かさによって変わってきます。

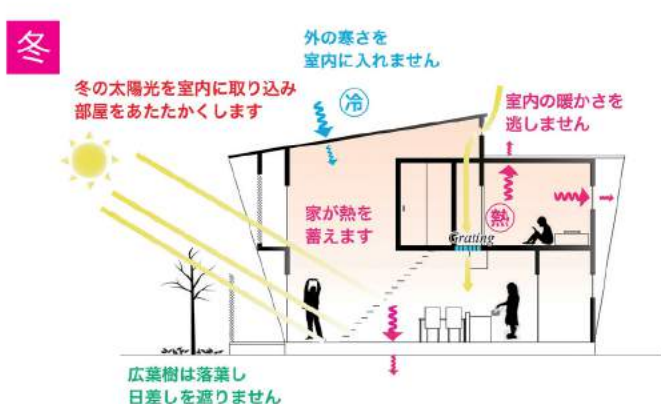
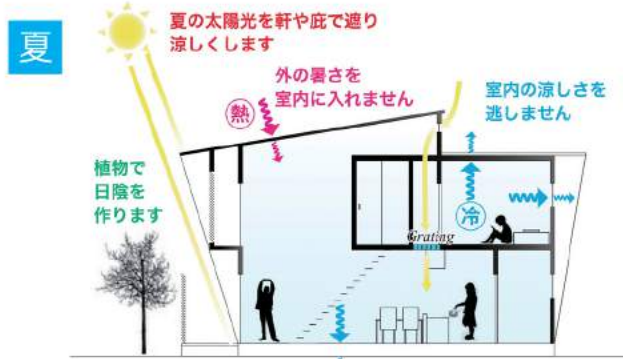
⑤昼光利用

太陽の光で明るく室内になるのはとても気持ちいいことです。人工的な照明とはまったく違う心地よい明るさがそこに生まれます。「窓をつければいいだけじゃないの？」と思われるかもしれませんが、室内を明るくするテクニックには様々なものがあります。



出典書籍「本当にすごいエコ住宅をつくる方法」野池政宏・米谷良章 著 より

夏涼しく、冬暖かい！ 省エネで快適なパッシブデザインハウスの仕組み



パッシブデザインハウスと一般住宅の建築費比較

一般住宅	省エネ等級4住宅	パッシブデザイン住宅
●建物本体価格 ¥20,000,000 ●断熱費用等 ¥0 ●光熱費(35年) ¥8,750,000 ●生涯コスト ¥28,750,000	●建物本体価格 ¥20,000,000 ●断熱費用等 ¥330,000 ●光熱費(35年) ¥7,000,000 ●生涯コスト ¥27,330,000	●建物本体価格 ¥20,000,000 ●断熱費用等 ¥1,710,000 ●光熱費(35年) ¥5,250,000 ●生涯コスト ¥26,960,000

住まいは『生涯コスト』で考えましょう!!
「住宅価格+光熱費」

高品位基準で建てるKiya Styleの「高品位住宅」。

安心・安全・健康

魔法の断熱材 セルローズファイバー

セルローズファイバーは、新聞古紙からリサイクル生産される環境配慮型断熱材。断熱・調湿・防音・耐火・防虫に優れ、なおかつ自然素材という人や環境にやさしい理想の断熱材です。



■アルミ樹脂複合サッシ／Low-Eペアガラス(空気層16mm)

室内側に熱伝導率の低い樹脂形材、室外側に耐候性・耐久性に優れたアルミ形材を採用。異なる2つの素材の特長を活かし一体化させた複合構造により、高い断熱性を発揮します。住宅の省エネルギーはもちろん、躯体内結露を防止、住宅の長寿命化にも貢献します。

■構造用合板+筋かいによる耐力壁工法



■日射調整部材／庇・外部ルーバー・オーニングなど

パッシブデザインを考える上で日射の調整は大切です。冬暖かく、夏涼しい快適さを得るために、冬は窓から太陽光を取り込むのに対し、夏は庇や外部ルーバーなど日射調整部材で日射を遮ることが重要です。

■換気扇／全熱交換型24時間第一種換気システム

住宅の吸気と排気をすべて機械で行う換気システムです。換気方式の中で最も確実に換気できるタイプです。熱交換により外気も室温に近づけて吸気するため冬は暖かく、夏涼しい快適な住まいを実現します。

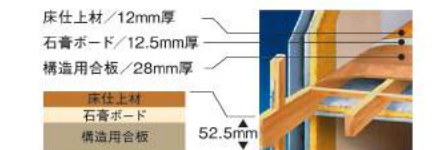
耐震性

■地盤調査の実施

スウェーデン式サウンディング 国土交通省にも認められた、住宅建設に適した地盤調査試験です。多くの国で標準化された方法で、土地の強さ(支持力・沈下量)が容易に判定できます。先端に専用のロッド(ドリル)を取付けて一定深度にて打撃を与えその回数により、建設地の状態を判断します。掘削した土の状況も確認できますので、砂質・粘土質等の地下の状態も解る優れた調査方法です。

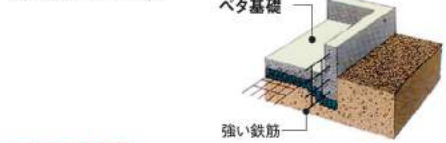
■安心の剛床工法

床下地は、従来の根太転がし工法より水平強度に優れた剛床工法を採用しています。2階床板は、合計52.5mmもの厚さで、快適性と地震時の強さを発揮します。



■安心のベタ基礎工法

ベタ基礎は、建物の地盤全体にコンクリートを打ち、建物の重量をスラブ面全体で支える構造のために、力を分散させるメリットがあります。鉄筋コンクリートは、コンクリートの圧縮力と鉄筋の引張力を合わせて出来ることで、強度を発揮します。デザイナーズハウス木屋では、全邸ベタ基礎を採用しています。



■設計基準

【柱の直下率60%以上】
【耐力壁線の直下率60%以上】
住宅金融支援機構の基準を満たした上で、更に建物構造の強化を図る耐震基準を強化しています。デザイナーズハウス木屋では、グリッド構造による間取りプラン作成で、構造の安定とバランスを考慮した設計を行っています。

耐久性

■機械式プレカット部材の使用

デザイナーズハウス木屋では、精密に機械加工(プレカット)された木材を使用しています。手加工に比べ1.5倍の強度で噛み合います。

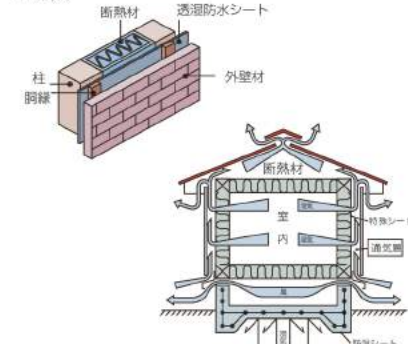


■安心の含水率20%以下

含水率とは、木材が含む水分の量の割合のことです。木材は乾燥状態の方が強度が高くなりますが、自然乾燥では時間がかかる上に乾燥度合いにばらつきが出るため、木材の人工乾燥技術が発達しました。木材の強度確保と材安定のために、デザイナーズハウス木屋では、主要構造材に、JAS規格の含水率20%以下の人工乾燥材を使用しています。

■外壁通気工法

外壁材と構造躯体(柱)との間に通気層を設けています。結露を防止、建物の劣化を軽減、気密性を維持しながら、壁体内の湿気をスムーズに外へ排出します。透湿性に優れた透湿防水シートを通気層内に施しています。



■木造「耐久性」住宅

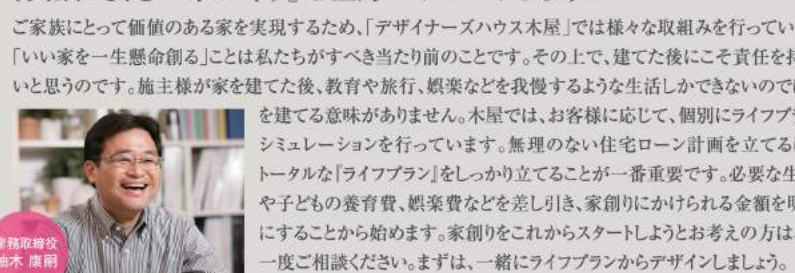
住宅金融支援機構 基準適合住宅



「kiyaファミリー」人と人との繋がりが、一番の安心！



精鋭ぞろいのKiyaスタッフが「笑顔と安心の家づくり」を全力でサポートします！
ご家族にとって価値のある家を実現するため、「デザイナーズハウス木屋」では様々な取組みを行っています。「いい家を一生懸命創る」ことは私たちがすべき当たり前のことです。その上で、建てた後にこそ責任を持ちたいと思うのです。施主様が家を建てた後、教育や旅行、娯楽などを我慢するような生活しかできないのでは、家を建てる意味がありません。木屋では、お客様に応じて、個別にライフプランのシミュレーションを行っています。無理のない住宅ローン計画を立てるには、トータルな「ライフプラン」をしっかり立てることが一番重要です。必要な生活費や子どもの養育費、娯楽費などを差し引き、家創りにかけられる金額を明らかにすることから始めます。家創りをこれからスタートしようとお考えの方は、ぜひ一度ご相談ください。まずは、一緒にライフプランからデザインしましょう。



デザイナーズハウス木屋の家創りはホームページでもご覧いただけます。▶ デザイナーズハウス木屋 検索

http://www.house-kiya.jp/